

9. 景観の現況

1) 近景

史跡に近接する道路上等から「城らしさ」を感じる景観を見ることができるのは、史跡南西側の腰曲輪下から西側の榊山稲荷曲輪の下付近で、盛岡城跡の高石垣を最もよく眺めることができる場所となっている。なお、この場所は盛岡駅方面から菜園を通過して、盛岡城跡にアクセスする場合の入口にあたるため、盛岡城跡の城としてのシンボル性を高める上で重要な場所であると位置付けられるが、榊山稲荷曲輪下の入口（42頁第22図動線現況図K付近）周囲にある大木が石垣を隠している他、付近の老朽化したトイレが景観を阻害する要因となっている。

このほかには、石垣等盛岡城跡の象徴的な景観を眺めることができる場所は非常に限られているのが現状である。市内路線バスの停留所がある岩手教育会館前付近（動線現況図M、N付近）および岩手産業会館付近（動線現況図O付近）、市道・内丸大通三丁目線付近（動線状況図P付近）からは樹木に遮られ、石垣をわずかに垣間見ることができる程度である。

市道・内丸大通三丁目線や下曲輪商業地の周囲からは内堀（亀ヶ池・鶴ヶ池）を見ることができるが、城郭の堀とは認識しにくい。また、もりおか歴史文化館南側の芝生広場からも、鶴ヶ池畔等の樹木に遮られ、本来は眺望できる二ノ丸、本丸の石垣を眺め見ることはできない状況である。



腰曲輪南西部



坂下門周辺



二ノ丸西側下部トイレ付近



二ノ丸西側

史跡西側道路からの景観

2) 中～遠景

史跡を囲む道路や中津川畔から城郭（主に石垣）を眺望できる地点はいくつかあるが、史跡の東側については、高木により眺望が遮られている。また、史跡の北側や西側は、建築物が史跡地に接しており、城郭の存在がわかりにくい状況となっている。



プラザおでって付近より史跡東部



同左 史跡南東部



中津川対岸より史跡南東縁辺部



中津川対岸より史跡南辺部



西側（菜園）より史跡西部（カワトク前西側）



西側（菜園）より史跡西部（ららいわて付近）

3) 城内景観

城内景観の阻害要因としては、主に戦後に植樹または自然発生した樹木の密度が濃くなり過ぎていることがあげられる。このため、曲輪の空間的な広がりを感じにくくなっているとともに、周縁部地区では高石垣、主要曲輪地区では三ノ丸、二ノ丸の虎口や枡形など、「城らしさ」を感じさせる景観が樹木により遮られる結果となっている。こうした状況は、岩手公園開園当初及び昭和初期の絵葉書と現況の景観を比較することにより確認できる。(51～55 頁参照)

また、公園施設の状況で述べたように老朽化の進む鉄柵や、園路のアスファルト舗装、管理のためのプレハブ等の施設も景観の阻害要因となっている。また、城内に設置されている電線と電柱については、早期に対策が必要であると考えられる。



本丸の柵と電柱・電線



二ノ丸の電線・電柱



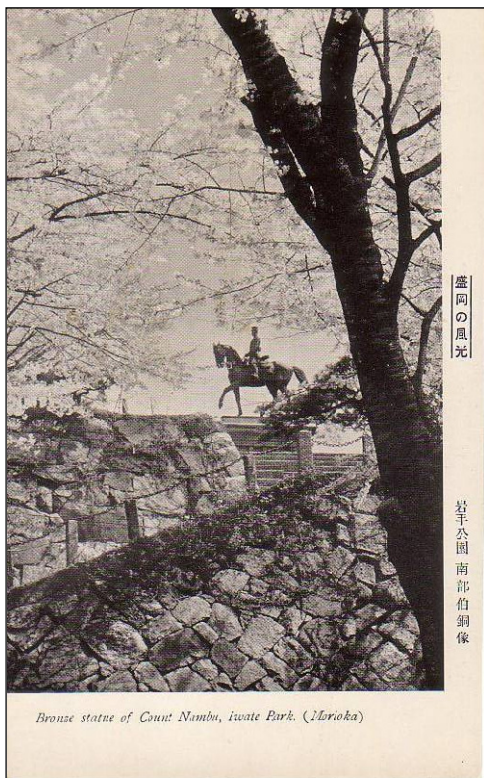
三ノ丸の電線・電柱



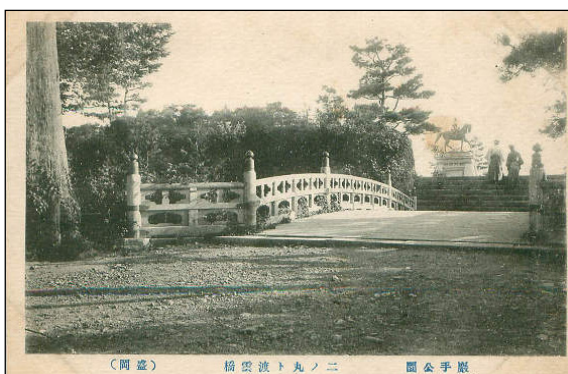
樹木の繁茂による眺望の阻害
(三ノ丸北側下)



本丸（南部中尉銅像）



本丸南側（南部中尉銅像）



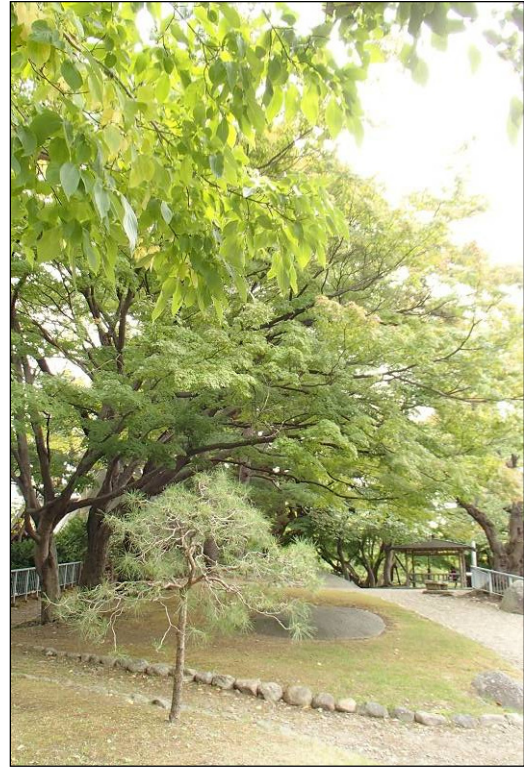
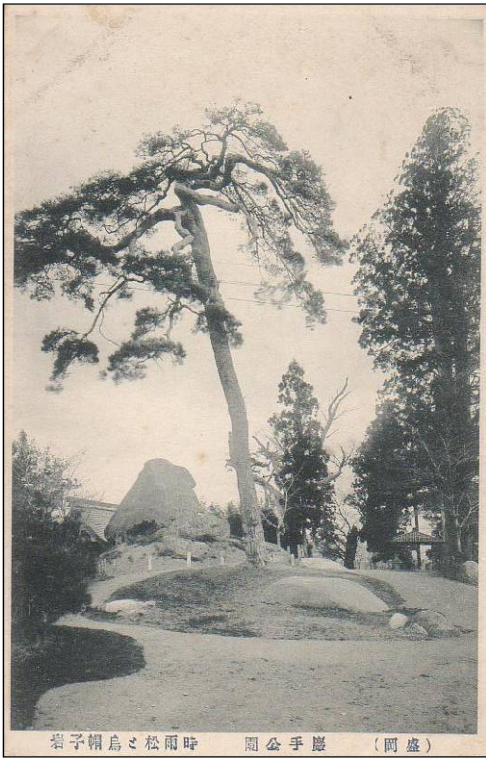
二ノ丸と渡雲橋



二ノ丸南側



望岳亭と岩手山 (二ノ丸西側)



時雨の松と烏帽子岩 (三ノ丸北側)



双龍亭と運動場（三ノ丸より台所）



櫻山神社跡（腰曲輪）



桜林（腰曲輪）



梅林（腰曲輪北側下部）



花壇



鶴ヶ池（藤棚）



鶴ヶ池



梅林（腰曲輪東側下部）



上り口（吹上坂）

※絵葉書 もりおか歴史文化館収蔵

4) 眺望景観

本丸，二ノ丸，三ノ丸等から市街地や中津川の景観，周囲の山並みを眺望することができるが，城内景観で指摘した樹木により眺望が遮られている箇所が多く，特に東側の中津川方面の眺望にこの傾向が顕著にみられ，「盛岡らしさ」を感じさせる眺望景観が損なわれている。

かつての盛岡城跡からの眺望は，二ノ丸，本丸から岩手山を望むことができる西側の景観が魅力であり，東側の中津川方面の眺望については宮沢賢治が「川と銀行木のみどり」と詩に詠んだが，現在，西側は高層建築により岩手山を望むことのできる地点が限定され，東側も川（中津川）と銀行（岩手銀行旧本店本館）を共に望める地点はほとんど存在しない状況である。



腰曲輪北西部



本丸北東部



本丸北西部



腰曲輪南西部

城内からの眺望景観